

司式 杉山昌樹牧師

前 奏

奏楽 門脇陽子長老

開 会 招 詞 詩編96編1-4節

\* 賛 美 歌 19:1 (ソングシート)

1. 荒野の果てに 夕日は落ちて、たえなるしらべ 天よりひびく。

グロリヤイン・エクセルシス・デオグロリヤイン・エクセルシス・デオ アーメン

\* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈禱書2 罪の告白①

神よ、わたしを憐れんでください。御慈しみをもって。深い御憐れみをもって、背きの罪をぬぐい去ってください。わたしの咎をことごとく洗い、罪から清めてください。わたしは咎のうちに産み落とされ、母がわたしを身ごもったときも、わたしは罪のうちにあったのです。わたしを洗ってください。雪よりも白くなるように。神よ、わたしの内に清い心を創造し、新しく確かな霊をさずけてください。救いの喜びを再びわたしに味わわせ、自由の霊によって支えてください。主よ、わたしの唇を開いてください。この口は、あなたの賛美を歌います。主イエス・キリストの御名によって。アーメン。 (詩編51)

罪の赦しの宣言

十 戒 祈禱書4

1. あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
2. あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
3. あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱える者を、罰しないではおかない。
4. 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
5. あなたの父と母を敬え。
6. あなたは殺してはならない。
7. あなたは姦淫してはならない。
8. あなたは盗んではならない。
9. あなたは隣人について偽証してはならない。
10. あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人

のものをむさぼってはならない。 (出エジプト20、申命記5)

\* 賛 美 歌 19:2

2. 羊をまもる 野べのまきびと、あめなるうたを よろこびききぬ。

グロリヤイン・エクセルシス・デオグロリヤイン・エクセルシス・デオ アーメン

共同の祈禱 降誕節 第三主日 受肉

栄光の主なる神さま、あなたを賛美します。

イエス・キリストの誕生において、神の言葉は肉となつてわたしたちの内に宿られました。

わたしたちが、闇の支配から愛する御子の支配下へ移されるために、神の御子が、世を照らす光となつてくださいましたことを、心から感謝します。

わたしたちを暗闇の中から、驚くべき光の中へと招き入れてくださった、あなたの力ある御業を、広く伝えることができますように。アーメン

(ヨハネ1、コロサイ1、1ペトロ2)

献 金 (黒) 教会活動 (赤) 神学校 70

今献ぐるそなえものを 主よ 清めて受けたまえ アーメン

子どもプログラム

聖書朗読 イザヤ7章10-15節 (旧約聖書1071頁)

マタイ1章18-25節 (新約聖書1頁)

説教・祈祷 「新しさのしるし」 杉山昌樹牧師

\* 賛美歌 22:1-2

1. 神の御子は今宵しも ベツレヘムに生れたもう。いざや友よ、もろともに  
急ぎ行きて拝まずや、急ぎ行きて拝まずや。

「神に栄えあれかし」と、御使いらの声すなり。地なる人もたたえつつ

急ぎ行きて拝まずや、急ぎ行きて拝まずや。アーメン

\* 主の祈り 祈祷書1

天にまします我らの父よ

願わくは御名をあがめさせたまえ

御国を来たらせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ

我らの日用の糧を 今日も与えたまえ

我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく 我らの罪をも赦したまえ

我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ

国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

\* 頌 栄 66

世をこぞりて、ほめたたえよみさかえつきせぬ、あまつかみを。アーメン

\* 祝 禱

後 奏 (黙禱)

報 告 雨宮信長老 (司会・受付 次週：古澤兵庫長老)

本日 受付 1階：藤井牧子・那珂信之執事 2階：星野房子執事 /ZOOMホスト・録音：番場  
験也

次週 受付 1階：若月学・森永美保執事 2階：加藤良明執事 /ZOOMホスト・録音：森永翔  
馬

※ グループ制により、長老も1階と2階に一名ずつ加わります。

マタイ1：18-25 「新しさのしるし」

クリスマスは喜びの時

今年は25日が本来のクリスマス礼拝ですが、グループ制をとっていることもあって今日もクリスマス礼拝としています。一週クリスマスを先取りしておりまして、ちょっと得した気分です。しかし、クリスマスの喜びは、ちょっとしたものではなく、もっと大きなものはずです。それこそ私たちの人生が変わってしまうほど大きなものです。そのような喜びを神様から与えられるのです。それも私たち、一人一人に与えられるのです。そのような喜びを受け取るその先駆けというのでしょうか、第一号になったのがヨセフではないかと私は見ています。ヨセフに与えられた喜び、それが今このところまで続いていて、それを私たちも、みな神様からいただくことができるのです。そのようにしてまずヨセフに与えられた喜びの知らせを、今日の聖書から一緒に聞いていきたいのです。

ヨセフが知った事実

とはいえ、ヨセフがこの時に知った事実は、喜びというよりは、大きな驚きと言った方がよいことでした。ここで語られておりますのは、イエス・キリストの誕生の次第であると始まっています。それは、一つ前の段落で、「マリアからメシアと呼ばれるイエスがお生まれになった」という言葉の続きです。アブラハムから始まり、ダビデに至り、そのダビデの子孫であるヨセフの妻となったマリアからイエス様が生まれられた、わたしたちがすでによく知っていることですけれども、そのようにして、神様が預言者を通して約束してくださった通りに、ダビデの家から救い主が生まれるということがどうやって実現したのか、それを描いているのが今日の所です。そして、その始まりは、喜びというよりは、驚きと恐れだった、というのです。その理由は単純な事実として描かれています。「母マリアはヨセフと婚約していたが、二人が一緒になる前に、聖霊によって身ごもっていることが明らかになった」。イスラエルにおいては、婚約は、現代でいうところの結婚とほぼ同じ重みをもっていたようです。ただ、一緒に生活をしていないだけで法的にはすでに夫婦と見なされる、そんな状態です。ところが、結婚式を済ませて夫の家に迎え入れられるという正式の結婚生活を始める前にマリアのお腹に子どものあることが明らかになったというのです。そしてもちろん、ヨセフは全く身に覚えがないのです。それは、19節に「夫ヨセフは正しい人だった」と書いてあることからわかります。

ヨセフがわからなかったこと

その正しい人ヨセフが考えに考えて得た結論は、マリアをひそかに去らせることでした。それが、律法に従いつつ、一番マリアを傷つけない方法だ、と判断したのでしょう。「表ざたにせず」とは、訴え出ることをしない、裏切られたと言って騒ぎ立てない、ということです。自分の潔白を示して、マリアを追求するよりも、穏便に去らせてしまうのがよい、との判断です。律法に照らしての正しさよりも、律法の心である、愛から出る判断だともいえるでしょう。しかし、そこでこの正しい人ヨセフが全く思いもよらなかったこと、想像すらできなかったことが明らかになります。それは、この後、夢の中で天使によって示されていく事実です。すなわち、マリアは決してヨセフを裏切っていない、という事実です。この事はとても重要な点です。ヨセフは神様を信じていました。マリアを正しく愛していました。けれども、何かの間違いでマリアが自分を裏切ったのだ、という見方以外のことを思いつくことはなかったのです。今自分の身の上で起きていることは、あるいはもっとはっきりと言えば、マリアに子どもがあるのは、誰かほかの男性と関係を持ったから、という以外の可能性は全く思いつかなかったのです。そして、それは、特別なことではなくて、むしろ、当たり前なこと、そのような当たり前の結論が、まさに物事を考える場合の前提になっているのです。ここに、私たちは、人間の、そして、私たち自身の限界が顔をのぞかせていることに気付かされるのです。こうだ、と思い込んだこと以外が見えないのです。

我々がわかりにくいこと

少し話が飛びますけれども、神さまは私たちに言葉を通して語り掛けて下さる方です。何よりも聖書を通して語り掛けて下さる、これは、とりわけプロテスタントとして、聖書信仰に立つ者として大切な理解です。その一方で、神様は、出来事を通してご自身を示して下さる方でもあります。世界に働き

かけられるのです。例えば、マタイを始めとする福音書にしましても、パウロの手紙にしましても、イエス様がされたこと、使徒たちがしたこと、そのような出来事が多く記されているのです。そして当然ながら、聖書にしるされた出来事は、神様がそれをなして下さったこと、あるいは神様を信じる人たちの具体的な行動です。そのように神様は、地上に起きる出来事、人の行動を通してご自身を示してくださいます。そのような出来事を語り継いできたのが聖書で、私たちが言葉を聞く、というのはその点では神様の出来事の記録の言葉を聞く、ということになります。その場合には、そもそもの出来事が先に起きているのです。神様はこの地上で事を起こして下さるのです。そして私たちがいつでも、あらためて気づかされる必要があるのは、このようにして神様は出来事を起こされる、この世界において事実を変えて下さるといふその一点です。ヨセフにしましても、私たちにしましても、今私が生きているこの場所で、神様は働いておられないのではないか、ということをつつしか当たり前のように入れ込んでしまっているところがあるようです。しかし、そのように考えている人たちの前で神様は事を起こされる、それが今日の話なのです。前提を覆すことが起きるのです。

### 聖霊により

夢の中で天使は言います。「ダビデの子ヨセフ、恐れず妻マリアを迎え入れなさい。マリアの胎の子は聖霊によって宿ったのである」。これは科学的には説明できないことです。ただはっきりとしているのは、神様の力がマリアに働いたという事実です。実際に、新しい命がそこから始まったという事実です。その新しさは人間としてのあり方そのものの新しさです。人間自体のあり方が変わるというくらいの新しさです。すなわち、イエス様の新しさです。私たちと同じ肉体をもった人間でありながら、私たちの限界を超える存在である方、罪から自由である方、イエス様の歩みがそこからすでに始まっています。そして、天使はマリアともども、この新しい命を迎え入れるように、自分の家族とするように、とヨセフに迫ったのです。そしてヨセフは、この後を読みますと書いてある通り、この天使の言葉を忠実に実行したのです。それは、ヨセフが神様による新しい出来事を受け入れたということです。自分の人生の中に、イエス様を迎え入れたのです。ヨセフは福音書の中で、あまり目立たない存在ですけれども、神様の言葉を受け取る、それも、自分のもっている常識をひっくり返す言葉を受け入れた、それに従う決断をした、という点でまさに私たちの道しるべとなっているのです。

### 救いとは罪の赦し

それからこの出来事、すなわち、イエス様の命が地上で始まる、ということでもう一つ大切なのは「罪の赦し」です。21節でイエスという名前が語られています。「その子をイエスと名付けなさい」とあるところです。「イエス」とは訳しますと「ヤハウエは救い」となります。神様が私の救いとなってく下さる、という意味です。それはどうやって起きるか、と言いますと、その続きにある通りです。「この子は自分の民を罪から救うからである」。いうまでもなく、これは十字架と復活のことです。イエス様がご自分をささげられることによって、イエス様の民は、罪のない者とされる、あなたも私も罪のないものとなる、そうして神様と一緒に生きるものとされる、神様の守りの中に生きるものとされる、それが救われるという言葉の意味です。本当に助け出されるのです。もちろん、私たちの人生には様々な困難はあるのですけれども、そこにおいて一本芯が通るのです。神様が私たちを、私たちの心をはっきりつかんで下さるのです。そうして流されそうになったり、自棄になりそうになったところで、なお、私が共にいる、と神様が呼び掛けて下さることを知るようになるのです。それが、このところで言われております、インマヌエルという言葉の意味です。いつでも、どんな時でも、まさかここに神様はおられないだろう、と思われるところであっても、そこにも私と一緒に神さまがいて下さるようになる、インマヌエルとはその意味です。

### あたたかい心が今ここに

クリスマスの喜び、それは、イエス様によって、私たちの心に神様をお迎えできるようになった、その喜びです。丁度、ヨセフがマリアをその子ともども、自分の家に迎え入れたように、私たちもまた、イエス様を私たちの心の中に、そして私たちの家の中にお迎えすることができます。ヤハウエは救い、という名を持つ方を、私たちの生活の中に迎え入れることが今すでにできます。そして、イエス様が、この私たちの人生の中にある、一緒に生きてくださっているということを確認するたびに、私たちは温

かい心を取り戻していくことができます。戦争の影が近づき、平和を武器を買うことと理解する動きが強まる中で、不正がまかり通っているように見え、身勝手な人たちの引き起こす事件が増えているように見え、疫病への怯えがなおさらない中で、一体どうしたら希望をもって生きられるだろうかと悩んでしまうような時代の中で、しかし、すでに新しい光が射しこみ始めていることを私たちは知るのでした。

#### 神がともにおられる

ところで、最後に25節の言葉について短く確認します。「男の子が生まれるまでマリアと関係することがなかった。そして、その子をイエスと名付けた」。この所は長らく、とりわけカトリック教会において、マリアの処女性を示す言葉として受け取られてきたようです。しかし、そこにばかり注目するのはどうかと思います。むしろ、これは神様の出来事の完成のことばのように思えます。インマヌエルである方、すなわち、イエス様が生まれることを、ヨセフはマリアのそばで期待して待ち続けたのです。そして、イエス様が生まれたとき、「ヤハウェは救い」との名前が付けられたことでこの神様の御業は完成したのです。神様が約束され、神様の民が望んでいたことが完成したのです。そしてそこから新しい時代が始まりました。

#### 新しさのしるしイエス

ですから、イエスという名前は、新しいことが始まったしるしです。イエス様がおられること自体が、この世界がすでに新しくなっていることのしるしです。この世界は、まるで変わっていないで、いやなことが多くて、と思っているところで、すでに新しいことが始まっています。イエス様によってすべては新しくなっています。そのイエス様と一緒に、私たちは、これからの人生を力強く切り開いていくことができます。それはいつからでも、そしていつまでも続けることができます。私たちは、神様の新しさのしるし、イエス様と共に歩むのです。

#### 祈り

父なる神様。あなたは、ヨセフとマリアの下で、新しいことを始めてくださいました。それは、あなたがはるか昔から約束してくださっていたことでした。それは今すでに実現しております。私たちは、主イエスによってすでに救いをいただいております。それは、日々の生活の中にあなたをお迎えするという意味での救いです。わたしたちが、この与えられた事実を喜び、満たされた思いでこの週も歩むことができますように。主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。